

SUPPORTERS CLUB NEWS



友の会 会報

TAKAYAMA-UICHI MEMORIAL MUSEUM OF ART

〒039-2501

青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

七戸町立鷹山宇一記念美術館内

鷹山宇一記念美術館友の会

TEL 0176-62-5858 FAX 0176-62-5860

新館長に鷹山ひばり氏就任

平成11年1月26日に行われた財団法人鷹山宇一記念美術振興会本年第1回理事会において、七戸町教育委員会教育長を兼務されていた佐藤亘館長代行の後任として、鷹山宇一画伯の長女で、当財団副理事長の鷹山ひばり氏が鷹山美術館館長に推薦され、満場一致で承認されました。鷹山氏は、平成6年美術館開館以来理事をつとめ、平成9年副理事長に就任、この間社団法人二科会の事務局としても活躍されました。ここに鷹山館長より新任の挨拶を「紹介いたします。」

四月一日の朝、万感の思いを持って美術館の前に立ちました。——余命幾ばくもない日々を承知の上で館長職を受けその責務を全うされた小原恭平初代館長、開館式当日、末期の病床にありながら、大きな喜びと隆盛を祈念してくださった谷村保雄開発室長(当時)、そして美術館の完成を見届けないまま急逝なさった建築家の宮内康氏、ステンドグラス作家の池内康さんら、この美術

館との関わりが最後の仕事となったお一人おひとりの偉を懐の底に思い浮かべながら、熱くなったころを抑えつつ玄関の扉を開きました。こころざし中途にして旅立たれた方々の思い入れや期待、現在お力添えをいただいている皆様方の熱意に包まれている「鷹山宇一記念美術館」の館長に選任されましたことは、まことに身に余る光栄で、感謝の言葉もございません。

開館五周年を

迎える節目の本年、日本画壇の重鎮、平山郁夫先生の特別企画展と前田真三先生の写真展を開催できる幸運に恵まれ、鷹山宇一記念美術館はその存在感をますます深めております。当美術館が奥の深い、長途の文化

活動を担って行くためには、奇をてらうことなく、基本に忠実に進み、その文化思想が次の時代へと確実に継承されて行くことを絶えず念頭に置いておきたい、と考えています。同時に、格調高い良質な展覧会を開催して行くためには、美術館スタッフ一同は日々研鑽し努力しなければなりません。決められた日時、限られた予算、少ない人員で行うには、幅広い知識と知恵が不可欠になります。

「文化は知恵」であること

をつねに自覚して、多くの方々からの優れた考えが結集できるようにいたし、七戸町のみならずともに「開かれた知の美術館」に作り上げて行くことができれば、この若い美術館は確実に豊かで贅沢な歴史を一步一歩刻んでいくこととなります。世界の中では、戦火や飢えのため、芸術や文化にどこ

ろではない人々がたくさんいます。そんな今、同じ地球上で平和である幸せ、かつ自由な表現のできる意味をあらためて噛みしめながら、自分を役立てることのできる喜びをもって、日々努力してまいります。

佐藤亘前館長の「助言と指導を仰ぎながら、新任の館長として重責を果たしていく所存でございます。これまでも通り美術館の運営がつつがなく行われますように、叱咤鞭励のほどよろしくお願ひ申し上げます。

鷹山宇一記念美術館
館長 鷹山ひばり

平山郁夫展

4月29日(木)
5月30日(日)

会期中無休

- ◆◆◆ 入館料が決定しましたのでお知らせします。なお、友の会会員の皆様には、特典とありご入館いただけます。皆様のご来館をお待ちしております。
- ◆◆◆ 入館料 ◆◆◆
- ★一般 800(600)円
- ★高校・大学生 400(300)円
- ★小・中学生 200(100)円
- ※()内は20名以上の団体、前売料金。前売券は当館のほか、左記のプレイガイドでも販売しています。

青森市・松木屋チケットセゾン
八戸市・紀伊国屋書店弘前店
弘前市・三春屋プレイガイド
十和田市・十和田松木屋案内所
下田町・イオ下田ショッピングセンター

お呈茶のサービスのご案内

淡交会有志によるお呈茶が、5/9(日)に行われます。どうぞお楽しみに。

平山郁夫展
ボランティア・スタッフ
大募集!!

のを

展示作品と来館者の安全確保、そして来館者への案内のために、館内の監視にあたるスタッフです。美術に身近に接しながらのお仕事。可能な日、可能な時間内で結構です。会員の皆様のご協力をお待ちしております。

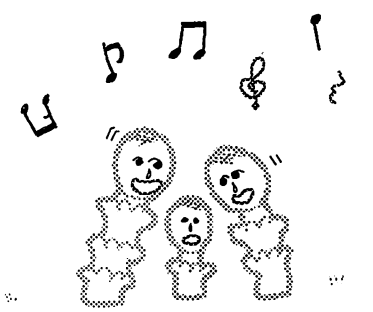
☎ 0176(62)5858
美術館まで。

世に油絵教室開催!!

参加者を募集します

このたび友の会では、美術館との共催により、会員を対象として、油絵の初歩から学ぶ「油絵教室」を開催することとなりました。これから油絵を始めてみようという方には絶好の機会だと思います。人数には限りがありますが、皆様のご参加をお待ちしております。詳細は次のとおりです。

- ◇ ◇ ◇
- 内容 油絵の初歩から学ぶ
- 募集人員 10名まで
- 応募資格 鷹山宇一記念美術館 友の会会員であること
- 期間 平成11年6月5日(土) 月2回(第1、第3日曜日) 合計10回
- 時間 午前10時～午後3時
- 費用 実費負担
- 会場 鷹山宇一記念美術館 2F工房
- 講師 小川敏雄 先生



- 共催 鷹山宇一記念美術館 友の会
- 鷹山宇一記念美術館 後援
- 七戸町教育委員会
- 応募締切日 平成11年5月23日(日)まで

講師の紹介

■小川敏雄(63才)
東北町出身。弘前大学教育学部卒業、教職に就く。絵画を川村精一郎先生に師事する。現在、白口会準会員、グループ彩会会員、野辺地西高等学校美術講師。

友の会 美術講演会

鷹山宇一記念美術館友の会

鷹山宇一記念美術館友の会平成11年度通常総会を左記のとおり開催します。
なお、今年度から友の会主催による美術講演会を開催することになりました。こちらは会員以外の方でも自由に参加できますので、興味のある方もお誘い合わせの上いかがでしょうか?総会かたがた会員の皆様のご参加をお待ちしております。

- 日時 平成11年6月5日(土) 午後1時～
- 会場 鷹山宇一記念美術館 2階工房
- 案件 平成10年度事業報告並びに収支決算書承認の件、平成11年度事業計画並びに収支予算案承認の件ほか

美術講演会

■日時 平成11年6月5日(土) 午後2時30分～4時30分(2時間)

■会場 鷹山宇一記念美術館 2階工房

■講師 (財)棟方志功記念館 館長 福井平内氏

■テーマ 棟方志功の世界

■定員 先着50名

■聴講料 無料

■後援 七戸町教育委員会 鷹山宇一記念美術館

★講師の紹介★

福井平内(ふくいへいない)……大正9年生まれ。東洋野郎平館村出身。青森師範学校専攻科卒業。平館村立石浜小学校を振り出しに、青森市立造道中学校長を退職するまでの40年間にわたり教職生活を送る。この間、昭和49年からの3年間に北教育事務所長を勤める。昭和55年4月～57年9月まで青森市教育委員会教育長。平成2年5月(財)棟方志功記念館館長に就任、現在に至る。日本板画院同人。

友の会 美術紀行

鷹山宇一記念美術館開館5周年記念

友の会、美術館の5周年を記念いたしました。平成12年1月19日(水)～1月27日(木)までの9日間にわたり、スペインへの研修旅行を企画いたしました。昨年度から定員30名の予定で参加者を募集しておりましたが、お陰様にてすでに44名の会員から申込みをいただいております。つきましては、これもちまして第一次募集を締め切らせていただきます。今後の申込みにつきましては、キャンセル待ちとさせていただきます。ご了承下さい。

美術館友の会企画主催、JTB八戸支店旅行主催による今回の研修旅行では、バルセロナ、マドリッド、トレドの主に美術館を中心にもわる、芸術三昧のスペイン美術紀行となります。



スペイン美術紀行

各都市での見学予定先は次のとおりです。

- バルセロナ(3泊) ガウディの作品等「サグラダファミリア教会、モンジエックの丘、グエル別邸、ガウディ博物館ほか、ミロ美術館、ピカソ美術館、カタクスとタリ美術館、モンセラ、その他市内観光等
- マドリッド(2泊) プラド美術館、ソフィア王妃美術館、王宮、スペイン広場、その他市内観光等
- トレド エル・グレコが魅了された街です。市内観光等

※「スペイン美術紀行」への問合せは、美術館 ☎0176(62)5858 までどうぞ。

情報

東京都・上野の森美術館において 6月14日(日)まで パリ国立ピカソ美術館所蔵『カソ展』が開催されています。興味のある方いかがでしょうか?

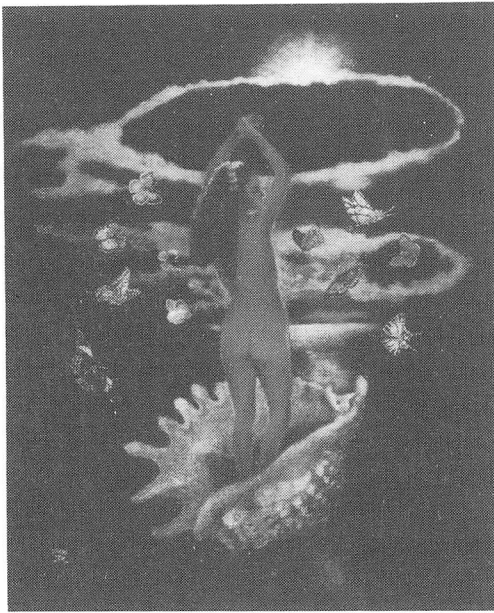
鷹山宇一記念美術館収蔵新資料として
鷹山宇一「海の誕生」を購入!!

平成11年1月26日開催の財団法人鷹山宇一記念美術振興会第1回理事会において、鷹山宇一1973年制作の油彩画『海の誕生』を購入することが承認され、新資料として美術館のコレクションに加えられました。美術館が購入する作品としては、2作品目となります。

『海の誕生』は、1973年、東京・大阪・名古屋の日動画廊において開催された「描かれた女」展」に出品された作品です。

漆黒の海、そして雲の向こう側には朝日でしようか黄金色の美しい光芒が広がっています。これらを背景として、一糸まとわぬ生まれたままの姿の女性を描いたもの……。

「海」は鷹山宇一の世界中でも好んで描かれる題材のひとつです。はるか昔に誕生した地球上の生物、その起源は「海」からと言われています。「海」は私たち全生物のいわゆる「母」とも言うべき存在。「港と花」を題材とした作品に鷹山自身こう言葉を添えています。「港はよく人生のたとえに使われる。夢や希望を持たせ休息や安らぎを与えてくれるのは生物の母体である海を携えているせいか、あるいは女性名詞の船が出入りするためであろうか。(中略) ゆつたりと母の懐に入っている船たちは遠目にも安堵を感じさせ、それらを包んでい



『海の誕生』(キャンパス・油彩・F12号)

詩的で、そして大きなロマンを漂わせている。」と……。

「海」そして、「母」「女性」へ向けられた、鷹山の視線が感じられる作品と言えましよう。

公開は、本年7月17日(土)～9月5日(日)まで開催の「鷹山宇一デッサン展(仮称)」を予定しています。どうぞお楽しみ。

鷹山宇一記念美術館
平成11年度企画展決定!!

お陰様をもちまして、本年8月1日、美術館は開館5周年を迎えます。これを記念し様々な企画展を計画いたしました。下記のとおりとなっておりますので、お誘い合わせの上是非ご来館ください。皆様のお越しをお待ちしております。

■4月29日(土)～5月30日(日) 会期中無休
「世界の文化遺跡を描くー平山郁夫展」
※詳しくは、会報1ページ下段をご参照ください。

■6月26日(土)～7月11日(日)
「第59回国際写真サロン」
※全日本写真連盟・朝日新聞社主催による写真の国際交流展。今展の開催にあわせ6月27日(日)には、写真教室とモデル撮影会が開催されます。

■7月17日(土)～9月5日(日)
「鷹山宇一デッサン展(仮称)」併催「科会青森支部展」
※昨年東京において開催された「鷹山宇一卒寿記念展」。本展では鷹山宇一のデッサンが一般に初公開されました。「デッサンは売り物じゃない、自分の勉強のためのもの……」鷹山宇一秘蔵のデッサンを紹介します。

■9月11日(土)～10月11日(月)
「前田真三写真展・丘の四季(仮称)」
※北海道中央部・美瑛町付近に広がる、ヨーロッパの田園のように美しい丘陵地帯を写した作品群で有名な、前田真三の写真の世界を紹介します。

■11月20日(土)～11月28日(日)
「青森県美術館コレクション展」
※県立美術館開館に向け、平成10年度に県が収集した美術資料を紹介します。

美術館日誌より

【一月】

◆仕事始め(3日)
◆大池亜希子学芸員が全国美術館等研究会議に出席
万博記念公園内の国立民族学博物館において2日間にわたって開催された学芸員の研修会です。公園内に設置されている岡本太郎の「太陽の塔」が、今もなお堂々たる姿を見せて

【二月】

◆当財団平成11年第1回理事会在が開催されました。平山郁夫展の入館料、館長の承認等について審議され、全議案とも可決承認されました。(美術館2階工房26日)

◆青森朝日放送が当館収蔵の絵馬について取材しました。(3日)

◆火曜サロン開催。(9日)

【三月】

◆県学芸員三好氏が青森県美術館コレクション展開催依頼のため来館されました。(9日)

◆七戸町青年教室「遊学塾」が金属の鑄造に挑戦しました。(美術館2階工房15日)

◆平成11年第2回理事会と第1回評議員会が開催されました。平成11年度の事業計画、予算案について審議され、全議案とも可決承認されました。(20日)

連載★彫刻のはなし

彫刻への理解を深めようと、平成10年7月5日に開催された二科会彫刻部会員・吉野毅先生の講演会。その一端を紹介しよう。この連載も、今回で最終回とさせていただきます。彫刻史のみならず、彫刻家として先生自身が感じたこと、体験したことなどナマのお話の数々から、先号に引き続き1960年代の彫刻界と、吉野先生ご自身が影響されたことについて紹介します。

そこで当時の彫刻界を具象彫刻に限って説明しますと、スライドで見てもいいました、現代イタリア彫刻、現代フランス彫刻、現代イギリス彫刻の影響を受けた彫刻家が公募展を舞台に活躍をしていました。特にマリニー、ファッチーニ、グレコ、ザツキン、リツシエなどの様式性の強い彫刻家の影響が多く見受けられました。当然芸大の彫刻科の研究室でも、マリニー調、ファッチーニ調、ザツキン調の作品が氾濫していました。

と、心棒に金アミをはり、スタツフ(麻クス)に付けた石膏をはっていく(直付けという方法でヘンリー・ムーアの作品はほとんどこの方法です)方法などで制作をしていくのですが、どうしても出っ張ったところは削りやすいのですが、凹面はよほど気を付けないとグシャグシャした状態になります。当然、中途半端な内容だと思われる彫刻には、オーソドックスな古典主義的(ロダンに代表される)解釈をする作家から見れば批判をしたくなるわけです。

つまり彫刻というのは、面の集合体であり、面と面がつながっていないければならない彫刻の凸凹の谷間がグシャグシャした状態では、空気が漏れているように面と面がつながらず、彫刻の中心から出てくる力をおさえることができず、彫刻の魅力である量の緊張感を表現することができないという批判であったと思います。この論争は大変興味深いものでした。

自然をしつかり観察し、それぞれの彫刻家が苦勞して作った様式からの影響は、所詮真似ごとであり息詰まってしまうケースが多かったように思います。僕も現代イタリア彫刻や先輩たちの影響を強く受け、56年そのような彫刻を制作しましたが、当然行き詰まってしまうました。流行だったんですね。

日動画廊主催の若手作家の登竜門と言われていた昭和会展(第6回展、現在も続いている)に出品したことがあります。展覧会初日に怖ず怖ずと緊張しながら会場に入っていました。僕は今でもそうなのですが、自分の作品があると思うとなかなかスツと入っていけないところがあります。ちようどその時もそのような状態で緊張をしていたのかもしれないですね。この会場の入口近くに、その頃の彫刻界の賞を軒並み取っていた、芸大の中でも大変影響力があった大先輩の「ちよつと下手だナ」と思われる彫刻が目に入ったのです。

しかし、実はその下手だと思えた彫刻は僕の彫刻だったんですね。この先輩は新作派協会の所属で、その作品は芸大の彫刻科を代表する彫刻であったと思います。最年少の出品者で多少の自信をもっていたであろう僕の鼻をへし折る以上のショックな出来事でした。笑い話のようにですが、ホントの話です。

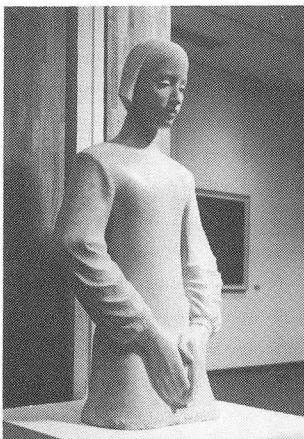
その直後、うまい具合にヨーロッパを旅行する機会に恵まれて、イギリスからエジプトまで廻ったんですが、ギリシャ、エジプト、エトルスク、ルネッサンス、ロマネスクの巨匠たちの作品に圧倒されながら僕の出した結論は、現代イタリア彫刻も、現代フランス彫刻も、ヨーロッパのど偉い古典を原点に生まれたことを認識しなければいけないということだったと思います。

帰国後、あれほど嫌いだつた奈良に行ってみようと思つたんですが、「日本文化の原点の空気を吸わせて欲しい」とか「自分は今迷っているんだ、ヒントを与えて欲しい」などと訴えていたのかもしれないですね。それと、あまりにも多くの石の文化の歴史を見てきた疲れもあったと思いますが……。

奈良の空気は柔らかく、包み込むように迎えてくれたような気がしました。薄暗いお堂の中の仏像たちの微笑みに出合った時は、何かホツとした記憶と、その微笑みは、アテネのアクロポリスの丘にある小さな美術館で見たコレ像の顔に重なってしまいました。

コレ像はギリシャのアルカイック期の代表的な彫刻ですが、飛鳥・天平時代の仏像との共通項があるように見えたんですよ。その共通項ってというのは何か……? 喋ってないんですね、こういうふうには解釈してくれてね。抑制のきいた静かな形と表情(アルカイックスマイル)をしている。先ほどスライドで見てもらった、ギリシャのヘレニズム期の彫刻でラオコーンという彫刻がありました。あのへびにからまれて苦悶の表情の彫刻ですね。大理石をあそこまで彫る技術は凄いですよね。日本の仏像彫刻にも似たような流れがあります。鎌倉時代の仁王像や肖像彫刻の中にいきすぎた表現を感ずることがあります。

ヨーロッパから奈良、僕の考える彫刻の本質を微妙にはあるけれども認識することができたのですが、前にせまった二科展出品をどうするか、困りましたホントに。でも作つたんですよ。それはね、ホントにお見せできないのが残念なんですけれど、ギリシャのアルカイック期のコレ像と飛鳥・天平時代の仏像、エジプトの王の像をミックスしたみたい、奇妙な、批評家を作つたような彫刻を作つちゃ



コレ像の複製品が展示されている。吉野毅先生の作品『懐』(テラコッタ)

【七戸町柏葉館展 示絵画】 「牡丹に唐獅子」

ものがたり

□□□ 福士 忠 □□□

主に多目的ホールとして広く町民に利用されている柏葉館。このロビーの壁面にひときわ目を引く絵画が展示されている。これが今回の連載の主題となる鷹山宇一画伯作「牡丹に唐獅子」である。鷹山宇一外伝というか、知られざる秘話というか……。当時の鷹山画伯を知る方々の協力を仰ぎ、友の会会員福士忠氏が書き下ろした注目の連載「牡丹に唐獅子」ものがたり、全3回がスタート!!

第一章 前書き

柏葉館を初めて訪れる人で、そのロビーの一方の壁面いっぱいを埋めて飾られている絵画「牡丹に唐獅子」の、雄渾華麗さに圧倒されない人はないことだろう。

この絵の作者は、七戸町出身であり、名譽町民・町立鷹山宇一記念美術館名誉館長鷹山宇一画伯である事は、聞き知る人は多くあってもこの絵の生まれた前後の事情についてご存じの方はあまり無いのではなからうかと思われる。

因みに鷹山画伯は明治四十一年十二月十日生まれで、昨年満九十才を迎えられた。東京にお住まいで二科会名誉理事・日本美術学校名誉教授の要職に在り、今なお現役の画家として麗筆を振るっておられる。

この絵の描かれた事情について最も詳しくご存じの方は、社会福祉法人美光園理事長であった金子聖海・フユ両先生を措いては無からうと思われるが、聖海師すでになく、フユ先生ご健在の中にお話を伺い書き止めて置かねばなるまいと思

い、美術館友の会会長山本洋一氏の要請もあり稿を起すこととしたものであるが、稿半ばにしてフユ先生のご他界(平成十年十二月二十日)に遭い、衷心より哀悼の情を禁じ得ないと共に、本稿の爲にも誠に残念に思うところである。

以下は故人となられた金子ご夫妻から折にふれ伺った事などを中心に、当時を知る人々の思い出などを練り合わせ一文にまとめたものであり、何かの参考となれば幸いである。尚、記憶違い等で誤りのある場合はご叱正を賜りたい。

第二章 柏葉公民館と盛田文造氏

戦前、青岩寺山門前のいわゆる寺門前、今墓地の一部から公民館通りの街路になっっているあたりに、七戸保育園というのがあったのはご記憶の方も多い事と思う。今の明照保育園の前身である。この施設は青岩寺三十四世鈴木・応住職と初代民選町長となつた盛田文造氏の後援を得て、今は亡き金子聖海師が昭和十五年に創設した七戸町最初の児童福祉施設であつた。

この保育園は、昼は幼児保育の為に使われるが、夜間と日曜日は空く事となる

のでこれを活用し、昭和十八、九年頃から前述の盛田文造氏の応援を得ながら、金子保育園長を中心に子ども達の教育に心を寄せる人達で、子ども達の為の校外教育を始めた。

当時大人の文化活動を行うグループに「柏葉文化会」というのがあり、盛田文造氏がその会長職に在つたがそれに倣い、「柏葉少年国民文化会」と名づけ、会長はやはり盛田氏にお願いした。

その内容は童話や物語などのお話会、紙芝居、体操、遠足などの外、戦後は臨海学校なども採り入れた。後に八戸市長から代議士にもなつた中村拓道氏が、上北地方事務所厚生課長時代に芥川龍之介の名作「蜘蛛の糸」を語り聞かせて下さつた事なども思い出される。

尤も戦後は「少国民・・・」という言葉に違和感を覚え、「柏葉少年文化会」と名乗つたものである。

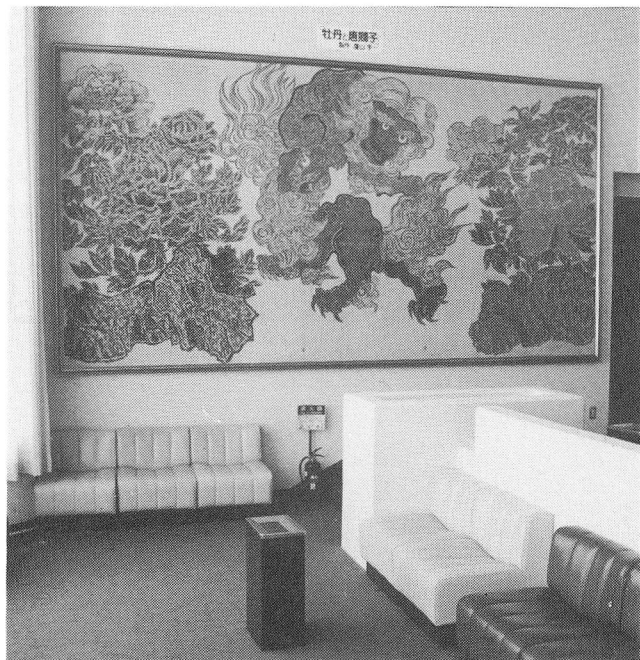
戦後アメリカ側の指導によつて公民館運動が奨められ、暗中模索の有様ではあつたが各地で公民館活動が盛んに行われるようになってきた。

然し町としては逼迫した財政の中で公民館どころではなく、また町民にもその必要性は必ずしも理解されるまでには至つていなかった。そんな中、いち早くその重要性に気付いて実践に乗り出す人々がいた。前記の盛田文造会長や金子聖海保育園長を中心とする人達で、終戦翌年の昭和二十一年十二月十日に「柏葉公民館」を発足させた。これは七戸保育園を拠点とした「借用公民館」であり、「公的性格を帯びた私設公民館」であつた。

この運動は県内でも指折りの早さであり世間の注目を浴びたもので、館長に盛田文造氏を戴き主事には金子聖海・福士忠両名があつた。

この活動が次第に町民にも滲透し、昭和二十五年にはいち早く前年公布の社会教育法に基づく社会教育委員の設置条例、翌二十六年には町立公民館条例の施行というところまで漕ぎつけたのであるが、残念ながらヤカタなしの「青空公民館」で辛抱しなければならなかつた。

【次号へ続く】



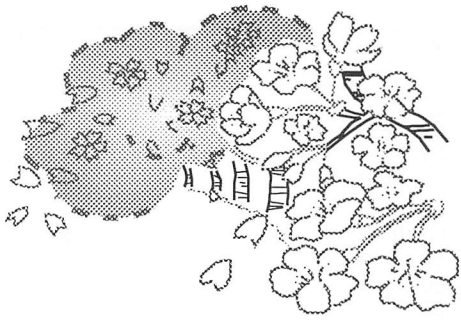
柏葉館ロビーを飾る鷹山宇一画伯作「牡丹に唐獅子」

会員登録の更新について

4月となり心も新たに新年度が始まりました。ここにて青森もようやく春めいてきたかな、と感じられるような今日この頃です。

早いもので、鷹山宇一記念美術館友の会も、本年11月、設立5周年を迎えることとなりました。これもひとえに、会員の皆様のお力添えの賜と厚く感謝申し上げます。

さて、4月1日から平成11年度(第5期目)の活動期間に入りました。会員の皆様には引き続き会員登録をご更新いただき、美術館の事業へのご協力及び相互学習に取り組んでいただきたいと思います。会員の種別



と会費並びに特典は、下記のとおりこれまでと同様です。よろしくお願い申し上げます。

平成11年度の更新手続きは、1月3日から美術館窓口にて、また、すでに発送しております郵便振込用紙による方法にて随時受付しております。

当会の事業、美術館、そして芸術に興味をお持ちのご友人にも是非ご周知いただけますよう、また、今後とも友の会並びに美術館に対して、ご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

会費規程

(規約第5条)

■一般会員

年額3千円

特典

- ・ 無料入館券3枚
- ・ 入館料、ミュージアムグッズ(一部対象外)割引
- ・ 会報の送付、研修会及び講演会等のご連絡

■特別会員(個人)

年額1万円

特典

- ・ 会員証の提示により入館料無料(本人と同伴者1名まで)
- ・ 入館料、ミュージアムグッズ(一部対象外)割引
- ・ 会報の送付、研修会及び講演会等のご連絡
- ・ 新規加入の方には美術館で刊行した画集1冊贈呈

■特別会員(法人)

年額2万円

特典

- ・ 会員証の提示により入館

料無料(本人と同伴者3名まで)

- ・ 入館料、ミュージアムグッズ(一部対象外)割引
- ・ 会報の送付、研修会及び講演会等のご連絡
- ・ 新規加入の方には美術館で刊行した画集1冊贈呈

※友の会規約については、会報1号に掲載しておりますが、美術館にも用意してございます。どうぞお申し付け下さい。

お問い合わせ

鷹山宇一記念美術館
TEL 0176(62)5858

「お知りなすおレポート」

鷹山宇一記念美術館友の会では、会員の皆様の自由なご意見・ご感想を募集し、会報にてご紹介して参りたいと思っております。

思い出深い絵、大好きな絵、お薦めの、また心に残った国内外の美術館について、そのほか友の会、美術館へのご質問やご意見・ご感想などを、800字以内で自由にお書き下さい。詳しくは事務局まで、お気軽にお問い合わせ下さい。

【原稿送り先】

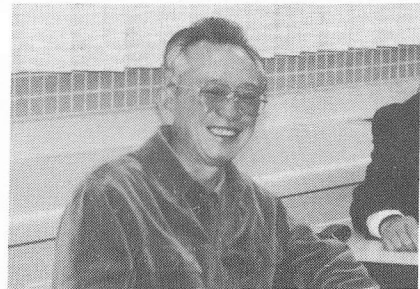
郵便番号 住所 氏名 電話番号、会員登録をお書きのうえ

T 03912501 青森県上北郡七戸町字荒熊内67-94

鷹山宇一記念美術館「友の会事務局」まで

なお、会報編集の都合上、原稿に一部修正を加えることがありますが、ご了承ください。

訃報



(財)鷹山宇一記念美術館 振興会
理事 石田 勲 氏

平成10年12月25日ご逝去されました。

石田理事は、友の会設立の折、七戸町文化協会会長としていろいろご助言を下さり、また、友の会運営の上でも貴重なご意見を寄せて下さいました。心からご冥福をお祈りいたします。

鷹山宇一記念美術館
友の会役員一同
鷹山宇一記念美術館
職員一同

編集後記

大変お待ちいたしました。今年4回発行してあります会報。今号は3月15日を日途に発行する予定でしたが、こうして新年度を迎えてしまいました。深くお詫言ひ申し上げます。運営体制もまだまだ未熟な友の会であり、今後とも会員の皆様の叱咤・激励・協力を賜りたく存じます。よろしくお願い申し上げます。なお会報は事務局側からの一方的なものであることも活用していただきたいと思います。会報を通して芸術・雑感など意見の交流はいかがでしょうか。皆様からのお便りをお待ちしております。

編集後記

鷹山宇一記念美術館
友の会

青森県上北郡七戸町
字荒熊内67の94
TEL 0176(62)5858
FAX 0176(62)5860